

避難に対する基本的な考え方



避難の考え方

避難しようと判断するのは「あなた自身」です。過去の災害で大丈夫だったからといって安心できません。避難することで助かるのは、「あなたの命」であることを強く認識してください。

ハザードマップを確認しましょう！

危険区域の中や周辺にお住まいの人

ハザードマップで、危険区域（浸水想定区域や土砂災害警戒区域など）にお住まいの人は、周辺の避難所や避難経路を確認しておきましょう。

危険区域の外にお住まいの人

危険区域の外にお住まいの人は、自宅での安全確保のための備えをしておきましょう。また、もしもの場合を想定して、周辺の避難所や避難経路を確認しておきましょう。

●避難行動には大きく3つの考え方があります

立退き避難

安全な場所まで立退き避難

- 洪水等・土砂災害・高潮・津波の場合
- タイミング：警戒レベル3または4
- 自宅等においては命が脅かされる恐れがあると自ら判断できる場合



※夜間に大雨が予想される場合は、明るい時間帯に避難をすませておくことも大事です。

屋内安全確保

自宅内の高い場所へ避難

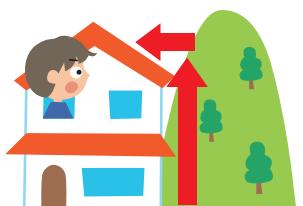
- 洪水等・高潮の場合
- タイミング：警戒レベル3または4
- 自宅等で安全確保できると自ら判断できる場合



警戒レベル4までに必ず避難

緊急安全確保 上階へ移動、がけや山から離れた部屋へ避難

- 洪水等・土砂災害・高潮・津波の場合
- タイミング：警戒レベル5
- 適切なタイミングで避難できなかった場合



避難のポイント

避難する前に

ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



浸水した道路を通る場合

水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。



一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

近所の一人暮らしのお年寄りや病気の人がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。



速やかに避難しましょう

避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。

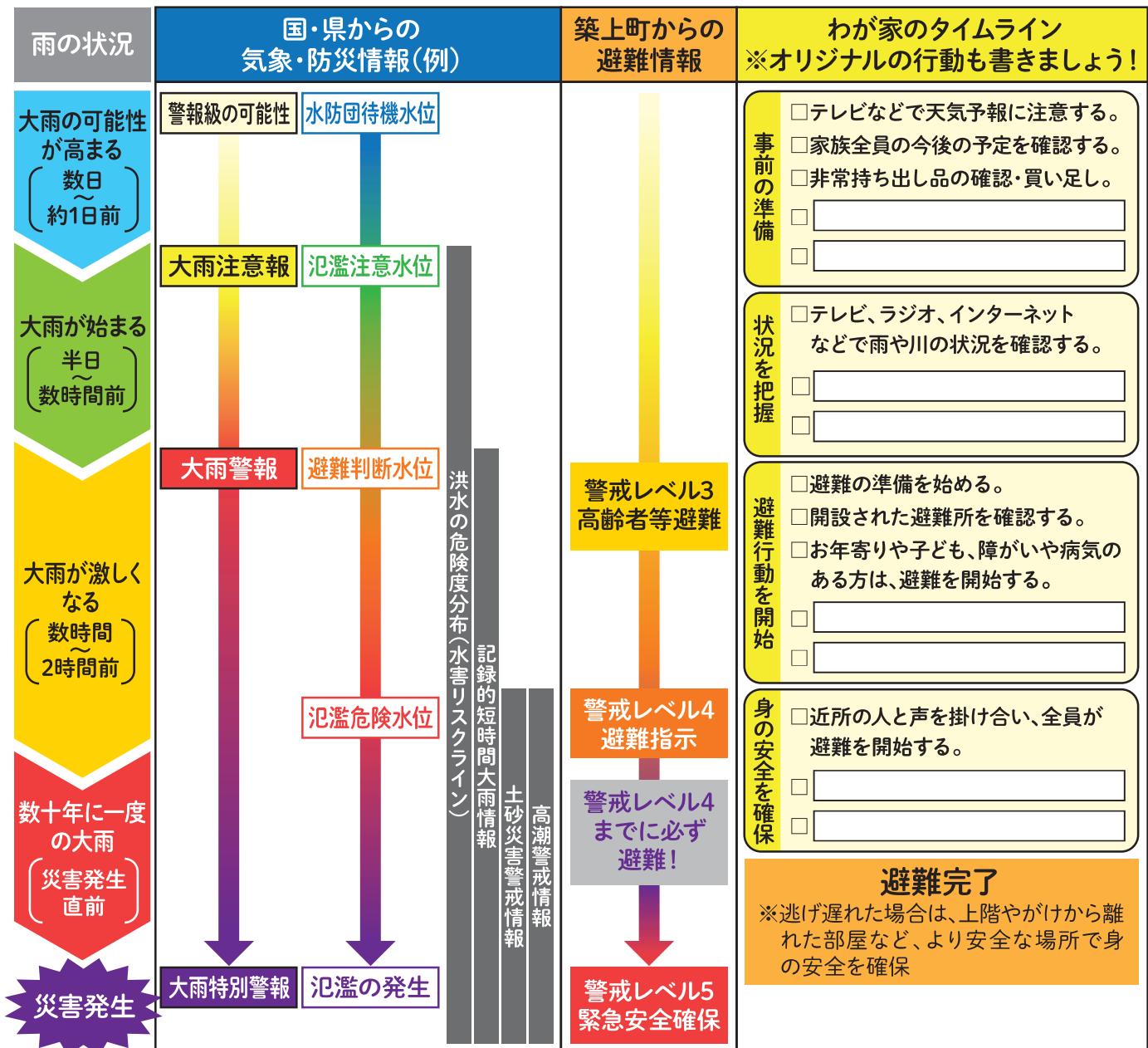


マイ・タイムラインを作成しよう!

マイ・タイムラインとは、台風の接近などによって大雨が降り、河川の水位が上昇した場合などに、住民の一人一人がとる防災行動を時系列に整理し、あらかじめ取りまとめておく自分自身の行動のチェックリストです。

マイ・タイムラインを作成することで、いざという時にあわてずに行動できます。

災害に備えて、家族で「いつ」、「誰が」、「何をするのか」を考えて、マイ・タイムラインを作成しましょう。



※この表は、防災情報等と災害時の対応の目安であり、災害時の対応が異なる場合があります。

避難を開始するタイミングを考えましょう

避難にかかる時間を想定して、避難行動を開始するタイミングを考えましょう。

